

2004 年 4 月 14 日

定期試験で100点満点をとるには
－勉強の方法を身につけよう－

開倫塾

塾長 林 明夫

Q 中間試験や期末試験など学校の定期試験で100点満点をとることはできますか。

A (林明夫。以下省略)できます。いくらでも可能です。ただし、勉強の方法を工夫し、その方法を確実に身につけておく必要があります。

Q 勉強の方法をどのように工夫し、どのように身につければよいのですか。

A 一番大切なのは、強い意思(いし)です。今度の〇〇試験では、何が何でも△△教科では100点満点を取るぞと強く「決意」し、その「志(こころざし)」を持続すること、つまり「持続する志」が最も大切です。一度決意したことは、ノートなどに記録しておき、折りに触れ読み返すことが志を持続させる最もよい方法です。また、親しい人に決意を表明するのも一つの方法です。黙々とやりたい人は、ノートに決意を書き記して「無言実行」を貫く。他人に意思表示をすることで自分を鼓舞(こぶ)したい人は「有言実行」を貫く。よく考え、どちらかを選択(せんたく)してください。決意をし、その決意を持続させて初めて夢は実現するということを定期試験に向けての勉強で学んでください。

Q 具体的には、どうしたらよいのですか。

A 試験範囲を推定(すいてい)することです。今回の試験では、△△教科は教科書あるいは副教材の何ページ目から、何ページ目までが出題されそうだというように、試験範囲を推定つまり予想することです。一教科ずつ予想し、その一覧表を一日も早く自分自身の手で作り上げ、ノートに記入するのです。

学校から配られる出題範囲表を待っていて、それから定期試験対策を開始するのでは、100点満点は取りにくいです。前回の試験範囲の次のところから定期試験日までの間に、学校の先生が授業をなさった内容が、今回の試験範囲になる教科が多いということは、よく考えれば簡単に推測できますので、その推測結果をノートに書き記しておきます。教科によって範囲が変わりますので、その都度(つど)修正を加えることも忘れないようにしましょう。教科書や副教材、自分のノートのどれを使って試験勉強するのか、勉強に使用する教材を自分自身で確定することも大切です。教科書や副教材、学校の授業中にとったノートだけでは、どうもさっぱり分からないと思われる教科、例えば「理科」などは、少し大きめの書店で参考書を選んで購入し、その参考書で勉強することも大切です。実験や観察、分析が中心の理科では、授業中それらに積極的に取り組んで、基本的な項目

については授業の中で「うん、なるほど」と深く「理解」できている人は、授業の後、教科書や副教材、ノートの内容を確実に覚え込む「定着」のための作業にまで進めますが、積極的に参加しなかった人は、「理解」が不十分ですから、次の「定着」のための作業まで進めません。理科の授業中「ボー」としてしまうことが多い人は、少し厚目(あつめ)で、易しく、丁寧に書いてある「参考書」で定期試験の勉強をなさることをお勧めします。

Q 教科書などは、どのように勉強したらよいのですか。

A 各教科とも試験範囲について勉強すべき材料(教材)が決まったら、まずは、躊躇(ちゅうちょ)せず一通り教材をゆっくり丁寧に読んでみることでできれば少し大きめの声を出して読んでみること(「数学」も声を出して読んでみること)です。

次に、1ページずつ、そこに書かれている内容が「うん、なるほど。」「これはこういう事だ。」とよく分かっているかどうか、つまり「理解」できているかどうかを自分で「確認」することです。

「理解」ができていない内容は、もう一度ゆっくり考えながら読み直したり、辞書や参考書などで調べ直したり、これはどんな意味か先生に積極的に質問したりしてください。試験範囲のすべての項目について「理解」することがまずは大切です。

Q 「理解」の次にすべきことは何ですか。

A 試験範囲内の教材をすべて、つまり一語一句残らず「覚え込んでしまう」ことです。まず何も見ずに口をついてスラスラ言えるまでにすること、次に何も見ないで「楷書(かいしょ)」でスラスラ書けるまでにすることです。このような「定着」のための「作業」を1ページずつ確実に行うこと、つまり「すべて覚え込む」ことです。

Q 最後にすべきことは何ですか。

A 「応用力」つまり「得点力」をつけるために、過去に出題された問題や予想問題集を数多くやりながら、「弱点」を補強することです。易しい問題は、問題を見た瞬間に条件反射で答えが出せるまでにし、難しい問題はじっくり考えながら解く、これが100点をとるコツです。頑張ってください。